

自給飼料生産を通じた良質和牛 生産への取組み

道央営業所 大舟 智之・二ールセン 明男 賀集牧場（平取町）

平素より弊社製品をご愛顧頂き、心から厚く御礼申し上げます。今回は北海道の日高地方西側に位置し、「びらとりトマト」、「びらとり和牛」といった特産品で有名な平取町より、自給飼料生産を通じた、良質和牛生産に心血を注ぐ賀集牧場を現地リポート致します。

賀集牧場は和牛繁殖経営（一部肥育を実施）を家族（3人）で営んでおり、飼養頭数は繁殖140頭、素牛80頭、肥育40頭です。草地面積は採草地在約60ha、放牧地在約15haとなっております。

畜主の昭知（あきとも）氏が経営を引き継いだ10年前、仔牛が虚弱で産まれる傾向があるという課題を抱えておりました。その対策としてミネラル剤を繁殖牛に給与したところ一定の改善が見られたそうです。そこで、当時担当であった農業改良普及員と相談し、牛本来の能力を引き出す根本的な改善に向けて、草地への投資を開始したそうです。

主な改善策は以下の通りです。

① 土壌改良資材の投入

改善開始時から実施したことは土壌pHの矯正、土壌中のカルシウム含量の向上に取り組みました。土壌分析を参考に防散苦土タンカル、防散タンカル、ホタカールS（弊社取扱いホタテ貝殻）を20kg/10a～60kg/10aを毎年散布しています。

② 肥培管理の適正化

基肥については一昨年より弊社が供給している炭酸カルシウム28%入りBB肥料（BB488Ca：14-18-8-4）を20kg/10a～30kg/10a散布しており、基肥の他に、昨今の天候不順に対応し、牧草に肥料切れが発生しないよう調整するため、硫安で窒素分を調整しています。また、毎年秋には完熟堆肥2m²～4m²/10aを散布します。牛の食いつきが落ちないように牧草が栄養不足または栄養過剰にならないような牧草の管理を実施しています。

③ マメ科牧草の積極利用

水田跡地の牧草地が多いことからマメ科が消える傾向が強かったですが、カルシウム資材投入を開始してから徐々にマメ科割合が増えてきました。また、5年前からアルファルファの導入も進め、草地からのタンパク質回収が効率的になってきています。



写真1. アルファルファケレス（9月下旬）

④ 牧草ロールへのサイレージ用添加剤の利用

改善を初めてから2年後、当時の弊社営業担当者の勧めで弊社酵素入りサイレージ用添加剤（商品名サイマスターACスプレー）の利用を始めました。乳酸菌の添加により、育成牛の食い込み量の増大（ロールの消費個数）と天候リスクによる劣質ロール産出の低減を主な効果として実感頂いております。



写真2. 豊潤な発酵香が漂う1番ロール

これらの取組みを通じて、当初課題であった虚弱仔牛の生まれる割合は低下し、また、自然分娩が増加したことによって、労働力軽減にも大きく寄与しているとのことでした。

最後に今回の快くインタビューを引き受けて頂いた賀集昭知様に誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。今後もお客様の経営の一助となるように邁進して参りますので引き続きご愛顧の程、お願い申し上げます。